

福井大学大学院
福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学
連合教職開発研究科

連合教職大学院

学校のリーダーを育て、
「学校拠点方式」に基づき学校の問題を解決し、
高い教師力を目指す連合教職大学院



福井大学



東京サテライト



奈良女子大学



岐阜聖徳学園大学

United Graduate School of Professional Development of Teachers
University of Fukui, Nara Women's University, and Gifu Shotoku Gakuen University



日本の教師教育を 世界に

学長 上田 孝典

本学の連合教職大学院は学校拠点方式の大学院です。現職教員が働きながら学ぶ大学院であり、学校の課題を学校で、他の教員と協働して解決する学校づくりのための大学院です。このような姿は「専門職は現場で育つ」ことを考えると当然の帰結かもしれません。しかし、その一方で世界に開かれ

た学びの場が保障されていなければ、OJTの限界を乗り越えることはできません。本学の教職大学院は、学校の中の世代間交流に加え、学校種や地域や専門性の違いを超えた学びの場が保障されている複合型コミュニティであることに特徴があります。現在、このような教師教育が世界から注目を浴びております。世界に羽ばたく教職大学院であることを期待しております。



実践力を身につけた 教員を目指して

教育学部長 山本 博文

教職大学院は、これまで身につけてきた知識・技能を磨くとともに、学校で教えるということについて、教師という仕事について、学校現場での長期インターンシップや現場での経験を踏まえて学ぶことのできる大学

院です。また授業研究・教職専門性開発コースの入学者には、新たに小学校、中学校、特別支援学校等の免許取得の道を拓く教員職員免許取得プログラムも用意されています。ぜひ教職大学院に入学し、自信を持って教師として学校現場に入っていける実践力を身につけてください。



未来を拓く学校を 創るために

研究科長 柳澤 昌一

学校が、未来の社会の担い手が学び育つ場である限り、学校はつねに未来に向けて発展し続けなければなりません。そして学校を支える私たちもまた、未来の社会につながる学校を創るために、学び続けなければなりません。これまでの教育の伝統を礎に、未来

をひらく新しい学校を創る。教師の協働の実践力、授業を創り子どもたちのコミュニティを支える力が求められます。そして教師が専門職として学び合う組織とそのマネジメントが必要となります。連合教職大学院はそうした新しい学校づくりの担い手のために生まれた、教育専門職の大学院です。未来を拓く学校を実現する協働の企図に、ぜひ参画していただければと願っています。

推薦の言葉

わたしたちも応援します。



福井経済同友会 代表幹事

江守 康昌

世界の人口増と日本の人口減少、AIやIoTに見られるICTの発達等、社会は大転換期にあり、私達は、迅速・主体的に対応できる人間力が問われています。この能力を育み、研究と実践を伴い教育力を養う大学院として、大きな期待を寄せています。



福井県教育委員会 教育長

豊北 欽一

一人ひとりの個性が輝く、ふくい未来を担う人づくりを実現するためには、柔軟な思考力と実践力を兼ね備えた教員の存在が欠かせません。各地域の学校現場で中心的存在としてマネジメントや授業改革を推進できる教員の育成を期待します。



福井市教育委員会 教育長

吉川 雄二

学校・家庭・地域が力を合わせ、社会全体で子どもたちの「生きる力」をはぐくむことが求められています。そのために、福井大学教職大学院で協働的な実践研究を進めながら、教員としての専門的力量を向上させることを期待いたします。



美浜町教育委員会 教育長

森本 克行

コロナ禍の影響を受けながらも学校現場では学びを継続させるための様々な工夫が求められています。又、ICTの活用や教員の働き方改革が進められるなど大きな転換期を迎えている中で、柔軟に対応し教育活動をリードしていける人材の育成を期待します。

教職大学院設置の目的

変化の激しい21世紀の社会を生きる子どもたちが、よりよく自己実現するために、家庭、地域、学校の連携で地域の教育力を高める必要があります。とりわけ学校においては、教員の専門的力量的の向上と協働研究が重要になります。そのために福井大学は、21世紀の学校教育を担う教員の専門的力量的の開発を目的として、教職大学院を開設しました。平成30年からは、奈良女子大学と岐阜聖徳学園大学と連合教職大学院を構成しました。令和2年度には、大学院教育学研究科が連合教職開発研究科に統合されました。特色ある附属学校・拠点校における実践研究を活かして、新しい教師教育を実現します。

「協働実践力」を構成する4つの力

1. 学習と成長を支えるファシリテーター・コーディネーターとしての実践力
2. 学習の協働組織とその改革のマネジメント力
3. 実践の質を不断に高め発展させていく省察・研究能力
4. 公教育としての学校を担う専門職としての教員の理念と責任

学校拠点方式による学びの7つの特徴

1. 学部卒院生は年間を通じた実習を通じて、教師としての高度な協働実践力を身につけます。
2. 現職教員院生は、所属校に勤務しながら、大学教員や同僚とともに学校の課題にとりくみ、協働実践力の質を高めます。
3. 今日的課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
4. 大学教員がチームでバックアップします。
5. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場や県の教育研究機関へ出向きます。
6. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開設します。
7. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

免許取得プログラム

3年間在学し、新たに小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教育職員免許取得の道を拓くプログラムです（授業研究・教職専門性開発コース）。

教育課程の概要

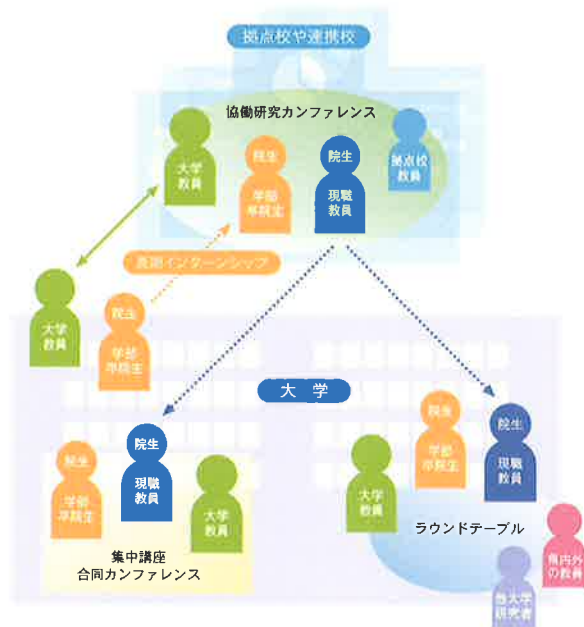
学位 …………… 教職修士（専門職）

修業年限 …………… 原則として2年

必要修得単位 … 学校における実習
共通科目、コース別選択科目
計45単位以上を取得すること

入学定員 …………… **60**名
学校改革マネジメントコース 概ね20名
ミドルリーダー養成コース 概ね15名
授業研究・教職専門性開発コース 概ね25名

授業研究・教職専門性開発コースでは、教科内容・教材開発の研究を重視して、チームで教科横断的・実践的なプロジェクトを立案・設計・実践する「授業研究専門性開発アプローチ」と、授業実践を中心として、学級活動や行事などの特別活動、校内研修に参画し、子どもたちと密に関わった教育実践研究を行う「教職専門性開発アプローチ」のいずれかを選択して学びます。



現職院生の多様な学び

県のマネジメント研修など所定の研修や講座の受講等を入学時に単位認定することで、1年での修了も可能としています。職業を有している等の事情により、標準の修業年限を超えて柔軟かつ計画的に履修することも可能です。

教育課程の特色

学校拠点の協働実践研究プロジェクト

学校を拠点とし、学校が抱える課題について教職大学院と学校が協働して取り組みます。

協働実践力の開発・発展を支援

「実践力」「マネジメント力」「省察・研究能力」「理念と責任」の4つの軸で教育課程を構造化するとともに、世代交流のサイクルを創り出していきます。

長期実践研究報告の作成

修士論文は課しませんが、長期実践研究報告の作成と発表を行います。

1年間の学校における実習

1年間を通して、学校の年間リズムの中で実習を行います。

事例研究中心の共通科目

「教育課程の編成・実施」「教科等の実践的な指導法」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校と教師の在り方」の5領域について、学校拠点の協働研究・カンファレンス・事例研究を通して学びます。

コース別選択科目

「カリキュラムと授業」「子どもの成長発達支援」「障害児の成長発達支援」「コミュニティとしての学校」「カリキュラム開発研究」「学校改革マネジメント」の6つの系の中から1つを選択し、主題に沿って実践と研究を深めます。

修了生の声

2017(H29)年度修了生
福井市宝永小学校
教諭 山田 芳裕



昨年度、初めての卒業生を送り出し、改めて「教師」という仕事の素晴らしさと責任の重さを感じております。今年度は2回目の6年生担任として、日々忙しくも充実した日々を過ごしています。

院生の時は、福井県内外の多くの先生方と実践を語り合う機会が多く、自分の実践を見直すと同時に、語り合う良さを肌で感じる事ができました。その学びが、子どもたちや同僚、保護者との関わりの中で生きていくと改めて実感しております。また、院生時代に出会った仲間も教師となり、今も様々な場面で情報共有することができていることも強みです。これからも子どもたちと共に成長する教師として、日々精進していきたいと思っております。

教育課程の構成

	学年履修単位(目安)	
	1年次	2年次
学校における実習(10単位)	10単位	0単位
共通科目(20単位)	14単位	6単位
コース別選択科目(15~16単位)	2単位 (8単位)*	13単位 (8単位)*
合計(45単位)	26単位	19単位

※「カリキュラム開発研究」を選択した場合。

授業科目例

共通科目例

1. カリキュラムのデザインの実践事例研究
2. 授業づくりの長期実践事例研究
3. 児童生徒の成長・発達支援の長期実践事例研究
4. 学校協働組織マネジメント
5. 教師の実践的力形成の課題と実践

コース別選択科目例

1. カリキュラム・授業改革マネジメント学校拠点長期協働実践プロジェクト
2. 児童生徒の成長・発達支援学校拠点長期協働実践プロジェクト
3. コミュニティとしての学校と教師の力形成学校拠点長期協働実践プロジェクト
4. カリキュラム開発実践研究
5. 学校組織マネジメント学校拠点長期協働実践プロジェクト

※いずれの科目も3名程度の大学教員がチームで担当します。

修了生の声

2018(H30)年度修了生
坂井市大関小学校
校長 林 小百合



理論と実践の往還を意識しながら、答えのない問いに向かって学び続けた2年間。年齢や経験、校種、時には職種も異なる院生と語り合うことで、自分の実践を自然と捉え直し、学校改革やあるべき組織の姿、そして理想のリーダー像に思いを巡らせることができました。教職大学院での研究の営みと学校現場での実践の営みが交互に繰り返され、2年という時の流れの中で、自分の中に何かが積み上がってくることを実感することができたのは、決して私だけではないはずです。他では経験できない教職大学院での貴重な学びとかけがえのない出会いは、これまでの私を大きく変えてくれました。そして今、私の背中を押してくれる大きな原動力となっています。

教職大学院の1年

授業研究・教職専門性開発コース



在学生の声

2021年度在学生
授業研究・教職専門性開発コース2年
岩城 つばさ



福井大学連合教職大学院には、長期インターンシップを中心に、金曜カンファレンスや月間カンファレンスなど、世代や校種を超えた学びの場が広がっています。その学びの場に身を置いて、揺れながらも進む中で、「自分はどういう教師になりたいのか。」「どのように子どもたちを支援して学びを支えたいのか。」「そのためにどんな人達と手を繋いでいべきなのか。」などといったことが少しずつ見えてきました。これからも様々な人達と学び合い、支え合うことができる環境の中で自分自身をみつめながら成長していきたいです。

在学生の声

2021年度在学生
授業研究・教職専門性開発コース2年
荒木 裕里香



インターン生として長期的に学校に入り、日々の実践の中からたくさんの学びを自分で生み出していく過程は、この教職大学院でしか培うことができない経験です。また、積み重ねてきた実践をじっくりと振り返る週間カンファレンスでは、自分では気づけなかった視点を得て次の実践につなげることができます。合同カンファレンスやラウンドテーブルでは、多種多様な方々との語り合いを通して、自身の思考の幅を広げることができます。ここでの学びはすべて、教員になるうえで必要な力に直結していると感じています。



ミドルリーダー養成コース
学校改革マネジメントコース



在学生の声

2021年度在学生
ミドルリーダー養成コース2年
岡山 佳耶



教職大学院は学びと問いを常に与えてくれる場所です。日々の実践と大学院で学ぶ理論が重なり合うことで、新たな価値(学び)に気付いたり、これまで気にも留めなかった事柄に疑問(問い)を抱いたりすることができます。この学びや問いが生まれるのは、年齢や立場、業種を超えた繋がりの中で実践を語り合える先生方の存在があるからです。共に学び、共に問いに迫っていく、そして自身の実践に活かす。この営みが私を成長させてくれます。生涯、学び続けるサイクルと、それを支えるコミュニティがここには形作られています。

在学生の声

2021年度在学生
ミドルリーダー養成コース2年
Tijpto William Wongsowajar



I joined Fukui University to study about education, but I discovered much more. Even in my first year, I had valuable meetings with many teachers of varying experience and I got a lot of feedback about my own practice. I realized that everyone has something to contribute to the teaching community, no matter how young or experienced, as every exchange builds upon our shared experiences. Through this program, I found the importance of practical lesson studies, discussion in the teaching community, and active reflection on our practice. Together with keeping sustainable goals in mind, we can help each other improve education in the future. I am improving myself and I am excited to continue in the DPDT program this year.

在学生の声

2021年度在学生
学校改革マネジメントコース2年
東京大学附属中等教育学校
大井 和彦



教職歴の中で知らぬ間に構築されつつも安堵している“井の中”の状態と向き合い、それを壊し、教職の在り方を改めて志向し思考するには、教科教育とは異なった教育学的視野が必要と思いこの教職大学院へ入りました。その在り方の思考は、先生方、院生の方々のお陰で個人の段階から組織の段階そして世界の段階へと広がっていただいています。また、県外の者としての在籍は、東京サテライトにいながら地域を超えた自己環境の相対化をも促されています。まさに、問い続け、学ぶ者であり続ける姿勢を養っています。

4 April

開講式

月間カンファレンス
(5.7.10.11月にも開催)

週間カンファレンス
(毎週1日、授業研究・教職専門性開発コースの院生を対象に開講)

5 May

6 June

ラウンドテーブル

授業実践

7 July

集中講座

8 August

9 September

10 October

11 November

12 December

集中講座

1 January

2 February

長期実践研究報告会

ラウンドテーブル

3 March

学位記伝達式

2021年度 福井大学大学院

福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科

拠点校・協働実践校・連携校

拠点校・協働実践校 25校

福井県教育総合研究所
福井県嶺南教育事務所
福井県特別支援教育センター
福井県福井特別支援学校
福井大学教育学部附属幼稚園
福井大学教育学部附属義務教育学校
福井大学教育学部附属特別支援学校
福井市中藤小学校
福井市明新小学校
福井市至民中学校
福井市安居中学校
坂井市立丸岡南中学校
美浜町立美浜中学校
東京都板橋区立中台中学校
東京都板橋区立赤塚第二中学校
東京都板橋区立上板橋第二中学校
カリタス学園(幼稚園・小学校・中学高等学校)
奈良女子大学附属幼稚園・小学校・中等教育学校
岐阜聖徳学園大学附属小学校・中学校
宮古島市教育委員会
板橋区教育委員会
羽島市教育委員会

連携校 46校

福井県教育庁
福井県立福井南特別支援学校
福井県立足羽高等学校
福井県立羽水高等学校
福井県立丸岡高等学校
福井県立武生東高等学校
福井県立武生商業高校
福井県立若狭高等学校
福井市春山小学校
福井市西藤島小学校
福井市国見中学校
坂井市立東十郷小学校
坂井市立加戸小学校
坂井市立高椋小学校
越前市武生西小学校
あわら市細呂木小学校
あわら市芦原中学校
敦賀市立角鹿小学校
敦賀市立粟野中学校
小浜市立小浜第二中学校
南越前町立河野小学校
美浜町立美浜東小学校
高浜町立高浜小学校

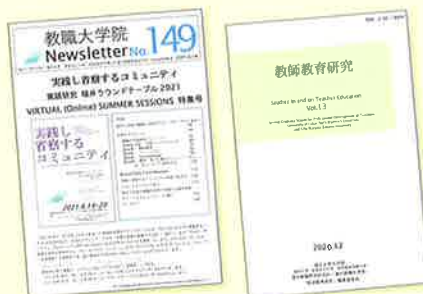
さくら認定こども園
認定こども園福井俊成幼稚園
幼保連携型認定こども園和田こども園
金沢大学教育学部附属高等学校
金沢高等学校
岡谷市立川岸小学校
岡谷市立岡谷西部中学校
羽島市立堀津小学校
燕市立分水中学校
富山県立魚津工業高等学校
町田市立武蔵岡中学校
保善高等学校
東京大学教育学部附属中等教育学校
立教女学院中学校・高等学校
二松学舎大附属柏中学校・高等学校
横浜市立青葉台中学校
埼玉県立総合教育センター
埼玉県立越谷南高校
静岡県立駿河総合高校
関西大学中部部・高等部
多良間村立多良間中学校
羽島市立中央中学校
宮古島市立狩俣小学校

院生の 経済支援について

福井大学基金にもとづき、本教職大学院に在籍する院生に対して、授業料補助や奨学金の制度があります。

詳細については、福井大学教職大学院のホームページをご参照ください (<https://www.fu-edu.net/support>)。

教職大学院関係刊行物等



各種刊行物は教職大学院コラボレーションホールで閲覧することができます。一部は教職大学院ホームページでも公開しています。

JR福井駅から文京キャンパスへは

- えちぜん鉄道……………福井駅→福大前西福井駅下車
(約10分)
- バス(JR福井駅西口バスターミナル2番のりば)
……………福井駅→福井大学前下車
(約10分)
- タクシー……………JR福井駅から約10分



福井へのアクセス

大阪・京都方面から

JRで 大阪・京都—湖西線経由—福井
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)

自動車で 大阪・京都<名神>—米原JCT—<北陸>—福井・福井北・丸岡IC
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間)

名古屋・静岡方面から

JRで 静岡・名古屋—米原経由—福井
(名古屋から新幹線と特急で約1時間40分、特急で約2時間10分)

自動車で 名古屋—<名神>—米原JCT—<北陸>—福井・福井北・丸岡IC
(約2時間30分)

東京方面から

飛行機で 東京羽田—小松空港(約1時間)—福井(連絡バス約1時間)

JRで 東京—米原経由—福井(東海道新幹線と特急で約3時間30分)
東京—金沢経由—福井(北陸新幹線と特急で約3時間30分)

自動車で 東京—<東名・名神>—米原JCT—<北陸>—福井・福井北・丸岡IC(約7時間)
※高速バスもあります。



お問い合わせ先

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

TEL:0776-23-0500(代) E-mail: g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

なお、入試情報、各専攻・専任教員の研究分野・研究業績等の詳細は
本学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/> をご覧ください。

教職大学院ホームページの紹介

<http://www.fu-edu.net/>

ニュースレターのバックナンバーをご希望の方はお問い合わせください。